

学内グラント 終了後報告書

平成18年度 学内グラント報告書

大学生の認識をもとにした高等学校における
性教育の現状と課題(第I報)

研究代表者 岡部 恵子(埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科)

研究分担者 佐鹿 孝子*, 大森 智美*, 久保 恭子*, 安藤 晴美*,
坂田 由紀子*, 穴戸 路佳*

掲載論文抄録

「健やか親子21」が課題としてあげている思春期における若年者の人工妊娠中絶、性感染症の増加等の問題解決にとって性教育は重要な役割を果たし得る。しかし、「健やか親子21」の中間報告においてそれらの改善は十分とは言えないという結果とともに、適切な指導者のいないこと、適切な教材に対する共通理解が得られていないことを性教育上の問題としている。本研究はこれらの問題解決への具体的方策を得るために、大学生に対して高等学校時代の性教育に関する認識調査を行った。調査の結果は以下のようであった。①性教育は約60%が男女合同で受けている。②性教育授業担当者は保健体育教諭が85.4%、養護教諭は13.7%であった。③適切な性教育授業担当者としては養護教諭を1位に、性教育の専門家を2位にあげ(両者とも6割弱)、保健師・助産師・看護師は37.9%(4位)であった。性教育を「理解できた」とする者は82.2%、「役に立った」は46.1%であった。⑤性教育の受講内容は「性感染症」

*埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科

が最も多くあげられ、「異性の人格尊重」「異性の心理と異性の付き合い方」「人間としての生き方」が少なかった。⑥高校時代にもっと聞きたかったのは「性感染症」「妊娠」「異性の心理と異性の付き合い方」「人間としての生き方」が多かった。

これらの結果をもとに、「高等学校における性教育授業担当者の現状と課題」「高等学校における性教育の教育内容の再検討の必要性」「高等学校における性教育に対する看護職の果たすべき役割」の3点について考察した。

その他

埼玉県下の公立高等学校2校、養護学校1校より依頼を受け、平成19年度、20年度と引き続き性教育の講義を実施し、1校から平成21年度の継続講義依頼を受けている。

追加研究成果リスト

日本母性衛生学会機関紙「母性衛生」50巻2号掲載予定(平成21年7月発行予定)。